

ディプロマポリシー		【１．知識・理解】	【２．汎用的技能】			【３．態度・志向性】		【４．統合的な学習経験と創造的思考力】	科目名	科目の教育目標
科目名		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかる的確な提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。		
教養科目群										人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「ものの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。
	歴史と文化					○				・人文科学分野(歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など)を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。
	人間と生命					○				・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。
	生活と社会	◎	○		○	○				・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。
	自然と技術					○				・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
	ウェルネス総合演習					○	○			・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながら講義と演習、実習により総合的に学び、考える。
創成科学科目群										現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。
	グローバル科目	○		○						・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。
	イノベーション科目					○	○			・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。
	地域科学科目	○	○		○	○				・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
基礎科目群										大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。
	SIH道場		○		○	○	○			・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
	情報科学		○		○	○				・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。
外国語科目群										英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。
	英語			◎						・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基盤英語は、高校までに身につけた英語力の充実を図り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基盤英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。
	初修外国語			◎						・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。
	総合科学入門講座	○	○	○		○	○	○		・日本語で論理的文章を書く能力の基礎を身につける。 ・情報リテラシーを身につける。 ・総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。 ・留学その他の学習プログラムについて理解する。
	データ分析入門		○		○					現代の情報化社会を生きていく上で、さまざまなデータを分析したり、ソフトウェアを扱ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は、科学における認識の基礎である。また、諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは、情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろん、重要な意志決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。

ディプロマポリシー		【１．知識・理解】	【２．汎用的技能】			【３．態度・志向性】		【４．統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
科目名		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ること、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかわる的確な提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。	
	日本史研究Ⅰ	◎	○			○			日本の通史を理解する。 史料にもとづいて歴史的事実を確認することができるようになる。 日本の文化や歴史についての理解を深める。 日本語で論理的な文章を読み書くことができるようになる。 日本の通史の中で徳島という地域を位置づけることができるようになる。
	考古学概説	○	○			○	◎		日本列島の先史時代は、教科書に掲載されている内容とは相当異なるような形で研究が進化している。その最新の研究成果に触れて、今後の研究テーマを模索するヒントを掴む
	グローバル交渉史	○	○			○	○		1. 世界の歴史について、体系的、構造的に理解するための基礎的な知識を修得する。 2. 現代社会の諸問題、地域的課題について、その歴史的経緯を踏まえて理解することの必要性を理解する。 3. 異文化理解の難しさを学びつつ、自己の存在を歴史・社会と関連づけて理解することの必要性を理解する。
	ネットワーク・アプリケーション研究	◎					○		インターネット時代の情報通信ネットワークの構築や運用管理、活用に関する知識・技術を習得する。 インターネットにおける情報通信の仕組みを理解し、サーバーを構築するために必要となる基本技術を身につける。
	マーケティング論Ⅰ	◎	○			○			市場の成熟化にともない企業の対市場戦略の拡大より、企業全体にマーケティング志向が必要な時代になりました。マーケティングⅠでは、いかに市場を選択するか、いかに市場を分析するか、いかに市場に対応するかといった企業の基本的行動（戦略）について学習していきます。またマーケティングの基礎と応用を統合し、マーケティングが企業経営の中核になるプロセスを学習します。最終的には、学生自らマーケティング戦略を考え、市場を調査・分析し、解決策を提案できるようになることを目標とします。
	データサイエンスデザイン								
	公共政策学	◎	○			○	○	◎	1. 公共政策学における諸理論を説明できる。 2. 公共政策学の現代的動向と課題を説明できる。
	行政法Ⅰ	◎	○			○		◎	1. 行政法の基本原則並びに行政行為についての法的しくみを理解し、行政法特有の法的思考力を養う。
	商法Ⅰ	◎	○			○		◎	商法Ⅰでは、株式会社制度の特徴およびその機関について講義を行う。講義全体を通じて、会社法がどのように利害関係者間の私的利益を調整しているか理解するとともに、大規模公開会社における株主総会の意義、取締役会の役割、代表取締役の業務執行の在り方、取締役の対会社責任の意義および問題点、監査役・会計監査人制度の在り方といった個別の問題について考える。
	地域経済論	◎	○			○		◎	農林水産業を中心した地域資源（農地、林野、漁場等）が歴史的見た使われ方について説明できるとともに、グローバル経済の下での経済環境の変化について理解して、新しい利用について語れる。
	財政学Ⅰ	◎	○			○		◎	財政学の基礎的な理解を得る。
	国際経済論	◎	○					◎	第二次世界大戦までの経済史、学説史、学説内容に係わる論点を理解する。
	ミクロ経済学	◎	○			○		◎	数学を用いた厳密な理論で経済理論のメカニズムを把握できる思考力をつけることを目標とする
	マクロ経済学Ⅱ	◎	○			○		◎	目 標：経済学の基礎理論を理解し、現実の経済問題の経済理論に基づく分析能力を獲得する。
	会計学Ⅰ	◎	○			○		◎	企業の行った経済活動をどの様に「認識するべきか、また正しく評価できるのか」といった記録面を理解することから始まり、その結果である財務諸表上から情報の利用者が求める「情報を正しく伝えられるのか」といった報告面を理解することを目標とする。
	憲法Ⅱ	◎	○			○		◎	1 表現の自由の意義を理解できる。 2 参政権と選挙制度の意義を理解できる 3 統治の原理を理解できる 4 統治機構論の内、議会、内閣、地方自治を理解できる
	民法Ⅱ	◎	○			○		◎	1. 契約法および不法行為法に関する基本的な知識を取得すること 2. 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うこと
	政治学Ⅱ	◎	◎			○	○	◎	環境政策を具体例として、ガバナンス、システム、、近代といった政治学の基本について説明できる
	平和学	◎	○			○			1.平和と戦争をめぐる現代の諸問題について基本的な知識を得る。 2.国際政治と国際法の基本的知識を得る。 3.幅広い国際的な視点から考察ができる。 4.平和で公正な世界の実現に向け、意欲と行動力を発揮することができる。

ディプロマポリシー 科目名		【１．知識・理解】	【２．汎用的技能】			【３．態度・志向性】		【４．統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標
		公共政策、地域社会、地域文化、情報デザイン、芸術デザインなどの専門知識や技能を踏まえ、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 論理的な思考に基づいて問題を的確に把握する能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 外国語の基本的運用能力を身につけている。	(3) 現代社会の諸問題や地域課題の解決に必要な情報を収集・分析した上で、総合的な観点から課題の解決にかかる確かな提言を行う能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 他者との協働を踏まえ、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる。	
コース基礎科目	経営学Ⅱ	◎	○		○				経営組織の特徴、伝統的組織論など、経営組織論に関する主要な概念や理論、財務管理論を習得し、それを応用しながら、組織を管理・運営する経営者の視点により、組織の諸問題について理論的に分析できるようにすることが目標です。
	社会統計学Ⅰ	◎			○		○		人文社会科学の実証研究に必要な統計学の基礎理論を学び、データ分析の実践的手法を習得する。
	社会統計学Ⅱ	○	○		◎				社会科学の実証研究に必要な統計的知識を学ぶと共に、SPSSを用いた分析もできるようにする。
	地域調査法A	◎	○		◎	○	○	◎	・文化人類学・民俗学的なフィールドワークの一連の流れを説明できる。 与えられたテーマに関する文献検索・収集を的確に行うことができる。 参与観察・インタビュー調査の基本的技法を修得し、フィールドで適用することができる。 適切な方法・形式で調査データを整理、加工できる。 社会調査・フィールドワークの倫理にかかる基本的な考え方を説明できる。 ・人文地理学的な地域研究の方法を理解し、社会調査・地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける ・文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し、具体的な事例に適用することができる。 ・地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、地域調査の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。また空間情報科学の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。 ・社会調査とは何かを理解する。
	地域調査法B	◎	○		◎	○	○	◎	調査票調査の一連の流れを理解し、調査票の作成・調査実施・集計・分析までを的確に実施することができる。 コンピューターによる文字・画像・動画データ処理の基本を実践できる。 質的データの整理・分析の手法を身に付け、具体的な事例に応用することができる。 論理的・効果的で説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ・地域調査の立案と設計、情報の入手、仮説と検証の手続きなど、地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する ・文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し、具体的な事例に適用することができる。 ・地域構造の解明や問題の発見・解決に取り組む研究分野において、「地域調査」が基盤にあることは言うまでもない。本授業では、地域調査の基本的な理論と手法を修得することを目的としている。また空間情報科学の技術と理論を活用した地域調査法の修得も目指す。 ・簡単な統計分析ができるようになる。
	空間情報論Ⅰ	○			◎				GIS(地理情報システム)とは、デジタル化された地図の図形情報にデータベース機能を結びつけた技術で、地図や空間情報を扱うあらゆる学問分野で展開している。それにともなって、GISの専門的な知識や技術を身につけた人材の育成に対する社会的な要請が高まっている。
	地域政策論Ⅱ	◎			◎		◎		地域政策の中でも、この講義では観光政策を取りあげ、政策の立案・決定・その効果や評価について学ぶ。観光という切り口から、文化、社会、経済の関連について具体的なイメージを持って分析することを目標とする。
	地域計画Ⅱ				○		◎	○	地域計画Ⅱは総論として、Ⅱは各論として位置づけられる。Ⅱでは、特に過疎地域におけるまちづくりに焦点を当てつつ、悪条件下での地域づくりの理論や手法を学ぶ。これにより、地方にあってまちを維持するための条件を理解できるようにする。
	地域文化論Ⅰ	◎			○		○	○	人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し、異文化(自文化)の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる。
	考古学調査法	○							発掘調査と出土資料の整理方法の基礎を学ぶ。
	日本史研究Ⅱ	◎	◎				○		日本の歴史、特に近世・近代を素材として、歴史的に考える力を身に付ける。また、そこから歴史的特質を読み取る力を身につけ、さらには歴史と文化に対する理解を深めることを到達目標とする。特に史料に基づいて論点を提示し、論理的に説明できるようになる事を目標とする。
	日本史基礎研究Ⅰ	○			◎		○		日本史理解の基盤となる史料の読解を到達目標とし、そこから歴史叙述につなぐことができる力を身につける。
	日本史基礎研究Ⅱ	○			◎		○		近世から近代の歴史史料の読解を行い、歴史史料を分析する力を身につける 史料を読解することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようになる。 文献資料と地方史料の両方を史料として活用できるようになる。 古文書を読解できるようになる。
	東アジア社会文化研究Ⅰ	○			○				基礎的な漢文の句法になじみ、返り点にたよらずに簡単な漢文であれば意味をとり訓読ができるようになる。

ディプロマポリシー <	
--	--

